



身近な題材で、初学者も楽しめる
ITプログラムを提供！
インターンシップを起点に広がる、
人材育成サービスの可能性

会社概要

【IT・ソフトウェア・通信】

かぶしきがいしゃ

株式会社ジジワークス

設立年月日	2020年6月19日
住所	大阪府大阪市中央区島之内1丁目21-23 大起興産長堀橋ビル7F
資本金	200万円
社員数	4名
URL	https://zigiworks.com/



外国人材採用の有無
無し

参加したインターン生

- 3名
- ・大阪公立大学 大学院 修士2年生（中国）
 - ・神戸大学 大学院 修士2年生（中国）
 - ・同志社大学 大学院 修士1年生（中国）

TRY in OSAKA! インターンシップスケジュール

1日目	IT業界への理解、歴史についての説明
2日目	ITコンサルティングの仕事についての講義・実務体験（プログラミング、システム監査）
3日目	ITコンサルティングの仕事についての講義・実務体験（ソフトウェア、ハードウェア）
4日目	ITコンサルティングの仕事についての講義・実務体験（データベース、ネットワーク、セキュリティ）
5日目	ITコンサルティングの仕事についての講義・実務体験（日本の情報産業、電力について）、全体振り返り

インターンシップ導入目的

多様な人材の活躍に向けて、人材採用の間口を広げる

Q.インターンシップを導入しようと思ったきっかけを教えてください。

当社は2020年に設立した会社で、Webサービス事業のほか、企業の会計・販売・在庫・人事といった基幹業務をまとめて管理する「ERPパッケージソフトウェア（※1）」の保守・導入コンサルティングサービスを展開しています。

インターンシップを導入しようと思ったきっかけは、「人材採用の間口を広げたい」という思いからです。設立間もない当社は、まず即戦力となる人材を確保したいと考え、これまで新卒採用を行わず、経験者採用を中心に進めてきました。しかし、IT業界の人材獲得競争は急速に激化しており、経験者のみを対象とした採用は年々難しくなっています。現在、当社は4名体制ですが、将来的には10名、さらには50名へと組織規模を拡大していきたいと考えており、そのためには採用の間口を未経験者や新卒層にまで広げ、自社でIT人材を育成していく必要があると感じていました。

その上で着目したのは、IT業界は多様な人材が活躍できる土壤があるという特性です。というのも、この業界では世界共通のプログラミング言語を扱うため、国籍を問わず働きやすいのです。この強みを生かし、当社としては外国人材も視野に、「意欲」や「適性」を重視した採用を行っていきたく考えました。そんな時に、当社社員の永野から「TRY in OSAKA!」事業の活用の提案があり、インターンシップを導入してみることにしました。将来的な採用を見据えて外国人材をインターン生として受け入れるとともに、多様な視点や考え方を取り入れ、組織の活性化につなげたいと考えています。

※1 会社の基幹業務を一元管理するための業務用ソフトウェア



左から
株式会社ジジワークス 代表 岡田 氏
大阪公立大学 大学院 修士2年生 ティさん（中国）
神戸大学 大学院 修士2年生 ダンさん（中国）
同志社大学 大学院 修士1年生 ゴさん（中国）
株式会社ジジワークス 二葉 氏
株式会社ジジワークス 永野 氏

初学者にも興味をもってもらえるように、ITの歴史から解説

Q.どのようなインターンシップを行いましたか？

当社はIT企業ですが、いきなり技術やDX（※1）といった専門的な話から入ってしまうと、IT初学者には内容が難しく感じられ、興味を持ちにくいと考えました。そこで、本インターンシップでは、まずITそのものに関心を持ってもらうことを目的に、IT業界の歴史を紹介するところからプログラムをスタートしました。現在も銀行・保険・行政などの基幹システムで使われている、1959年に誕生したプログラミング言語「COBOL（コボル）」や、1970年と2025年の大阪万博を支えたシステム環境の変化などを題材に、実務と結びつけながら説明を行いました。また、座学だけでなく、ITが社会の中でどのように使われ、企業活動を支えているのかを考えるワークにも取り組んでもらい、実務のイメージを深めてもらいました。

さらに、当社の主力業務である会計システムの導入支援を体験してもらうため、会計分野の業務体験も実施しました。実際のレシートを使ってインボイス制度（※2）に基づく確認作業を行い、「どの項目をチェックすれば正しく経費処理できるのか」を、実務と同じ手順で体験してもらいました。また、実在する企業の財務諸表を用いた演習では、売上や費用などの勘定科目がどのように管理され、企業のデータとして蓄積されていくのかを理解したうえで、こうした会計情報が会計ソフトや基幹システムの中でどのように処理・活用されているのかを結びつけて学べるよう工夫しました。これらの講義と業務体験を組み合わせることで、「会計業務で扱うデータがどのようにITシステムに連携され、業務を支えているのか」を具体的に体感できるインターンシップとしました。

※1 デジタル技術を活用して、業務やビジネスの仕組みを変革する取り組み

※2 2023年10月に導入された、消費税の仕入税額控除を正しく受けるための制度



岡田氏の講義を受けるインターン生3名。

人材育成の体制づくりが進み、新たなビジネスチャンスも発見

Q.インターンシップ導入後の変化や成果はありましたか？

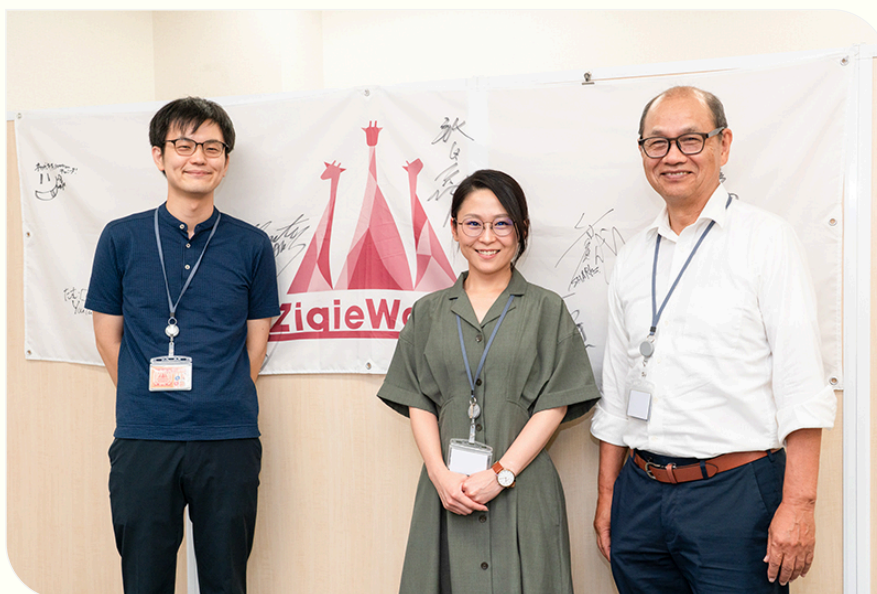
今回のインターンシップを実施するにあたり、当社では約3か月かけて研修用資料を丁寧に作り込みました。その過程で、各社員が持つ知識やノウハウを棚卸しして整理できただけでなく、社内のコミュニケーションも深まったことは大きな収穫でした。

作成した資料は、2026年入社予定の新卒社員研修にも活用予定で、社内の人材育成の体制づくりが一步前進したと感じています。

また、今回のインターンシップや作成資料を初学者向けIT研修サービスとして発展させることで、新たなビジネスチャンスに繋がられる可能性も見えてきました。実際にインターン生からは、「ITの仕事がより具体的にイメージできた」といった声もあり、会計とITの関係を実務に近い形で学べるプログラムには一定のニーズがあることを実感しました。こうした反応を受け、IT分野をこれから学び始める学生や社会人に向けた研修プログラムとして展開できる可能性もあるのではないかと感じています。今回の経験を、人材獲得だけでなく、新規事業の立ち上げなど事業成長にも直接結びつけていければと考えています。

さらに、今回、外国人留学生をインターン生として受け入れたことは、社員にとっても学びの多い機会となりました。期間中は毎日社員がトークテーマを設定し、動植物の知恵や格差社会、戸籍制度など、ITに直接関係のない話題も含めて様々な話をしました。今回、インターンに来てくれた学生が全員中国の方だったこともあり、日本と中国の文化や社会制度の違いなどについても議論する時間を設けたことで、インターン生だけでなく、社員も視野を広げ、新しい発想や価値観を社内に取り込むことができました。

今回が当社にとって初めてのインターンシップでしたが、社員とインターン生が密にコミュニケーションを取ることで、お互いに業務を理解するだけでなく異文化への理解も深められる充実した時間を過ごせたと感じています。また、新事業につながるアイデアが生まれるなど、当社のビジネスにおいても成果がありました。参加を迷っている企業も、思い切ってチャレンジすれば、きっと次のステップに進むためのヒントを得られるはずです。



「新しい挑戦や学びの場づくりを継続していきたい」と、強く語るジジワークスのメンバー。

一歩踏み出す気持ちをきっかけに、学びと自信を得たインターンシップ体験

Q.なぜこのインターンシップに参加しようと思いましたか？

(ダンさん)私は大学院でITとは異なる分野を研究していますが、もともとシステムエンジニアリングやコンサルティングに関心がありました。その両方を手がけるジジワークスなら、幅広く学びを深められると感じ、参加しました。

(ゴさん)ジジワークスがインターンシップ説明会の時に言っていた、「お客様の『明日』が少しでもよりよいものになるように」という言葉に惹かれました。人と関わりながら人を支える仕事がしたいという自分の思いと重なり、応募を決めました。

(テイさん)最初のきっかけは、日本のIT業界で人手不足が深刻化していると知ったことでした。「完全に文系の自分でも、IT業界に貢献できるのか」。その答えを確かめたいと思い、勇気を出して申し込みました。



それぞれ異なる専攻や関心を持ちながらも、「IT業界を知りたい」「自分の可能性を広げたい」という思いで参加した5日間のインターンシップ。

Q.インターンシップで得られたことを教えてください。

(ゴさん) インターンシップでは技術的なことを学ぶのだろうと思っていましたが、実際にはITの進化を振り返るところから始まりました。そのおかげでITの全体像を理解でき、業界に入る前にその歴史を学ぶことが大切なのだと実感しました。また、社員や他のインターン生との議論も楽しかったです。私の研究科では、格差社会や外国人の受け入れなどをテーマに議論していますが、大学院以外の場でそうした話ができるのが新鮮でした。会計に対する興味もわいたので、いつか日商簿記検定にも挑戦したいと思っています。

(ダンさん) 社員の方々は全員優しく、IT初学者の私にも丁寧に説明してくれました。ITの歴史やITを活用した具体的な事例など、身近な話題を交えて解説してくれたおかげで、ITへの興味がさらに高まりました。今では「ITパスポート試験」にも挑戦してみようという意欲がわいています。また、社員とインターン生で「動植物から得られる知恵」などをテーマにディスカッションする機会もあり、ITに限らず幅広い分野で学びを深めることができました。

(テイさん) もともとITの知識はありませんでしたが、身近な事例や比喻を用いて説明してくれたおかげで、一見難しい内容も理解することができました。特に印象に残っているのは、日本語処理(※3)の歴史に関する講義です。言語学の観点から日本語を研究している私にとって、ITの発展と結びつけて考えるのは新鮮で、新たな視点を得ることができました。参加する前は、「自分の日本語力で大丈夫だろうか」と不安でしたが、今は参加してよかったと心から思っています。自信がなくても、まずは勇気を持って一歩踏み出すことが大切だと思います。

※3日本語をコンピュータに処理させる技術のこと



終始、笑顔でディスカッションする3名。

※記載の内容はインタビュー時点(2025年)のもので【公開月:2026年2月】